

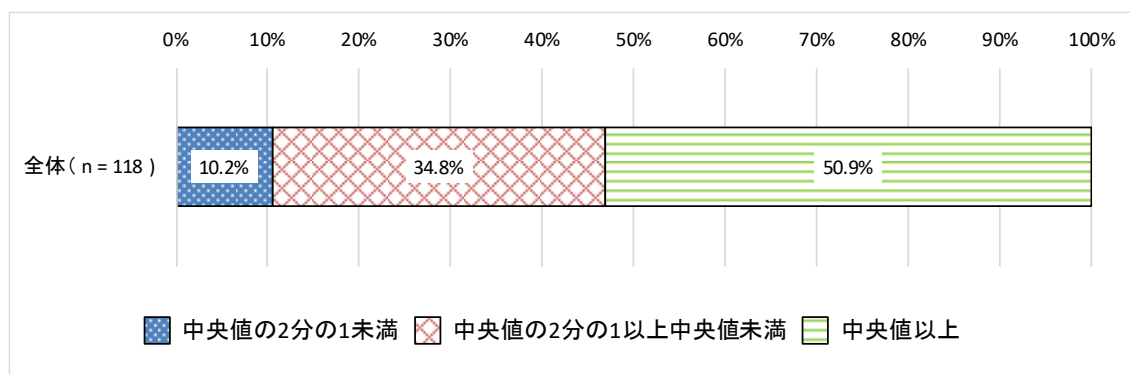
1. 1. 分析結果の概要

- 本報告書では、保護者・子どもの生活状況について、市の実態を把握するとともに、「等価世帯収入」の水準と「親の婚姻状況」別に比較分析を行った。分析の結果、世帯収入の水準や親の婚姻状況によって、保護者の生活状況や精神状態といった様々な面が影響を受けていた。
- 特に「等価世帯収入が中央値の2分の1未満」でもっとも収入が低い水準の世帯や、ひとり親世帯が、親子ともに多くの困難に直面している。

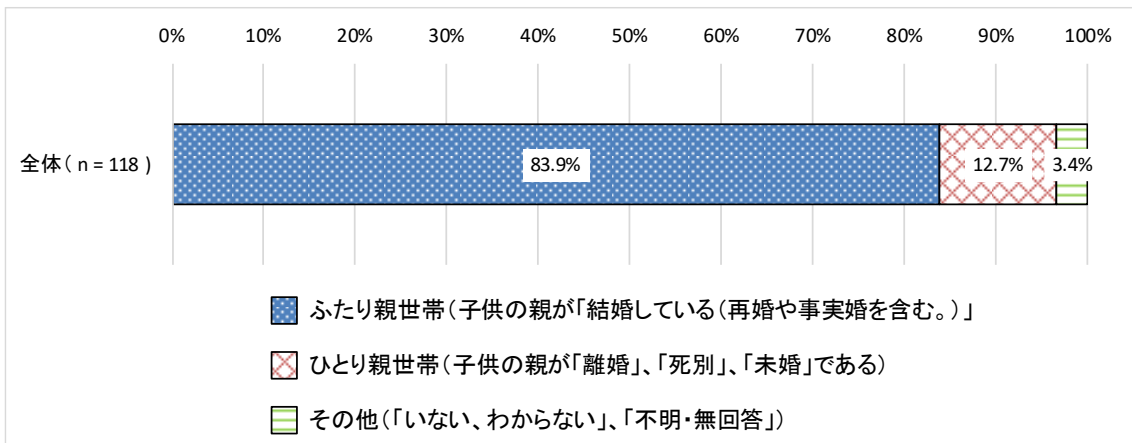
1. 1. 1. 保護者の生活状況

(1) 生活・行動実態、課題等

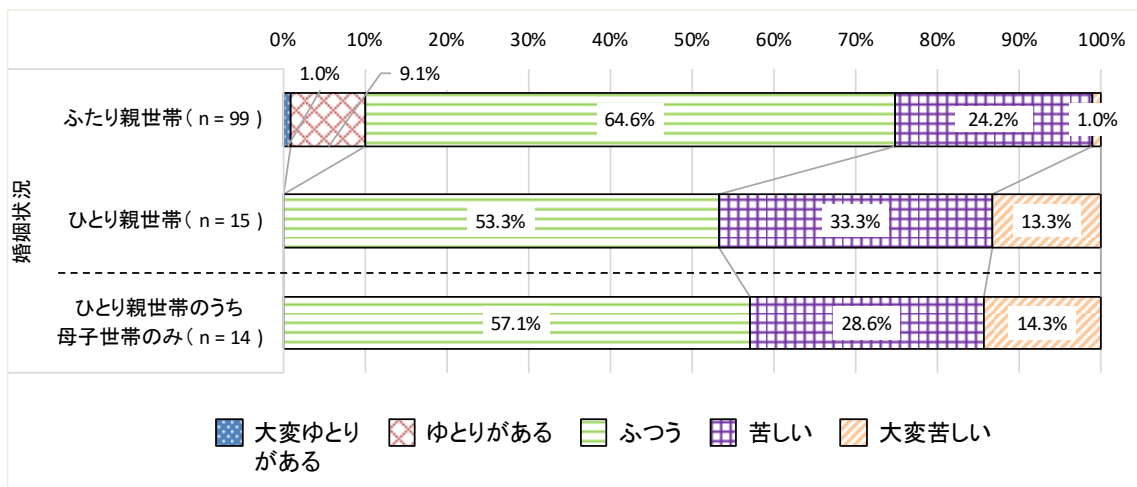
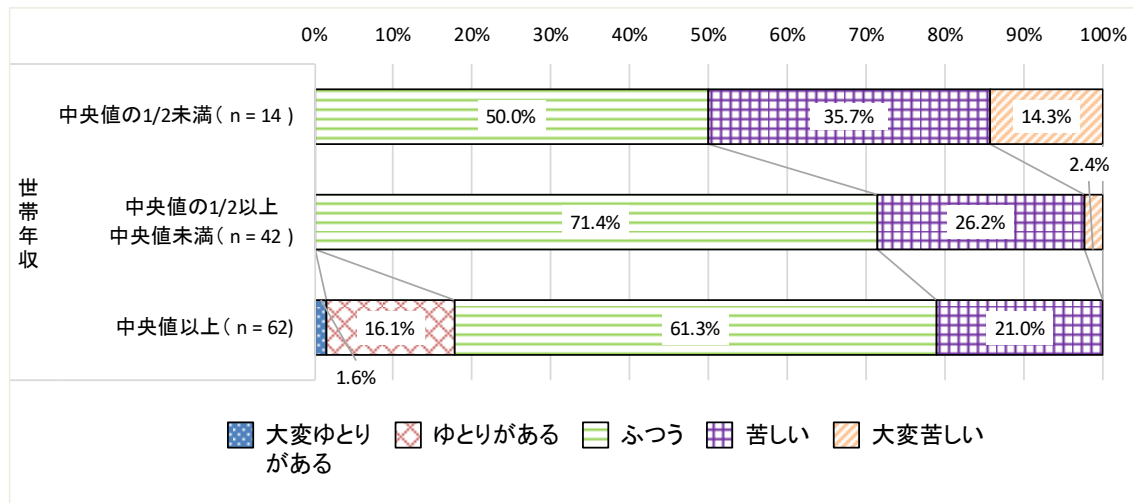
- 令和4年の世帯全員のおおよその年間収入について、家族の人数を踏まえて「等価世帯収入」の水準により分類している。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当するのは10.2%、「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当するのは34.8%、「中央値以上」に該当するのは50.9%となっている。「平成28年度かごしま子ども調査」（以下、前回調査）と比較すると、「中央値以上」の割合が高くなっている。



- 子どもの親の婚姻状況は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が83.9%、「離婚」が9.3%、「死別」が0.8%、「未婚」が2.5%となっている。「離婚」、「死別」、「未婚」は合わせて12.7%であり、これらを「ひとり親世帯」であるとして集計している。また、調査回答者の子どもとの続柄に関する回答から、「母子世帯」であるか「父子世帯」であるかを判別すると、ひとり親世帯であると考えられる世帯のうち6.7%は父子世帯となっている。内閣府が実施した令和2年度「子どもの生活状況調査」（以下、内閣府調査）及び前回調査と比較すると、母子家庭の割合が高くなっている。



●現在の暮らしの状況について、「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合について、等価世帯収入の水準別にみると、「中央値以上」の世帯では 21.0%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 28.6%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 50.0%となっている。世帯の状況別にみると、「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では 25.2%、「ひとり親世帯」全体では 46.6%、「母子世帯」のみでは 42.9%となっている。



- 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「食料が買えなかった経験」や「衣服が買えなかった経験」、「公共料金の未払い」が生じている割合が高くなっている。

食料が買えなかった経験があったかについては、「よくあった」が1.7%、「ときどきあった」が9.3%、「まれにあった」が12.7%となっている。内閣府調査と比較すると、「よくあった」「ときどきあった」の合わせた割合が高くなっている。

「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では26.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では57.1%となっている。前回調査と比較すると、全水準において同程度の割合となっている。世帯の状況別にみると、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では18.2%、「ひとり親世帯」全体では26.6%となっている。

衣服が買えなかった経験があったかについては、「よくあった」が2.5%、「ときどきあった」が8.5%、「まれにあった」が14.4%となっている。内閣府調査と比較すると、「よくあった」「ときどきあった」の合わせた割合が高くなっているが、前回調査と比較すると、同程度の割合となっている。

「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では30.9%、「中央値の2分の1未満」の世帯では42.8%となっている。中央値の2分の1未満の世帯について、前回調査と比較すると、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合は低くなっている。世帯の状況別にみると、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた割合は、「ふたり親世帯」では21.2%、「ひとり親世帯」全体では53.3%、となっている。

「電気料金」、「ガス料金」、「水道料金」について経済的な理由で未払いになっていることがあったかについて、「あった」（該当）の割合は、それぞれ5.1%、4.2%、5.9%となっている。

未払いの経験について等価世帯収入の水準別にみると、「中央値の2分の1未満」の世帯では、「電気料金」は21.4%、「ガス料金」は21.4%、「水道料金」は21.4%が「あった」（該当）となっている。世帯状況別にみると、「ひとり親世帯」では、「電気料金」は20.0%、「ガス料金」は26.7%、「水道料金」は26.7%が「あった」（該当）と回答している。

●母親・父親の学歴の就労状況の違いが収入の水準や世帯状況と関連している。

「母親」の就労状況について等価世帯収入の水準別にみると、世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、「正社員・正規職員・会社役員」が35.7%となっている。前回調査と比較すると、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が高くなっている。

「父親」に関しては、「中央値の2分の1未満」の世帯では「正社員・正規職員・会社役員」が35.7%と他の世帯と比べて低くなっている。「中央値の2分の1未満」について、前回調査と比較すると、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が低くなっている。

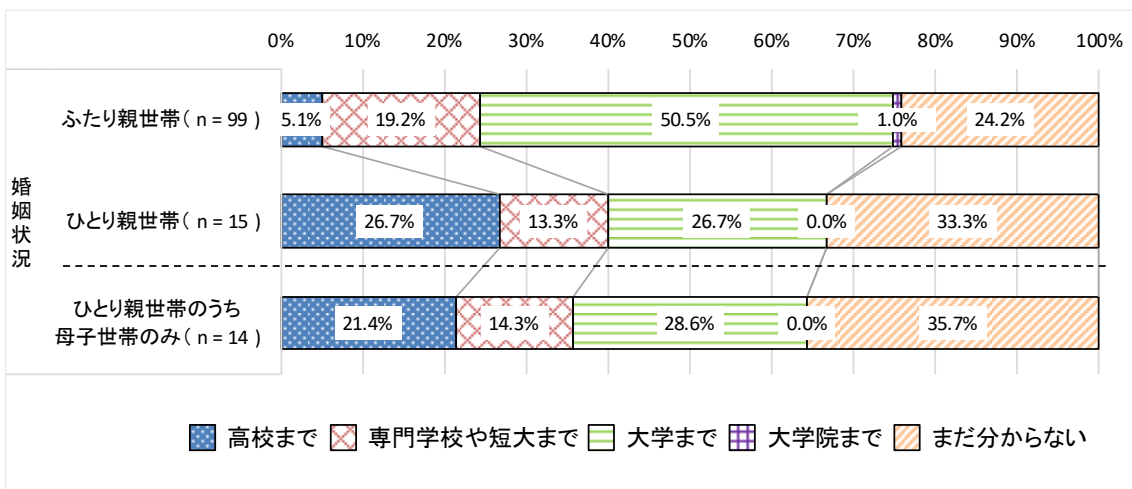
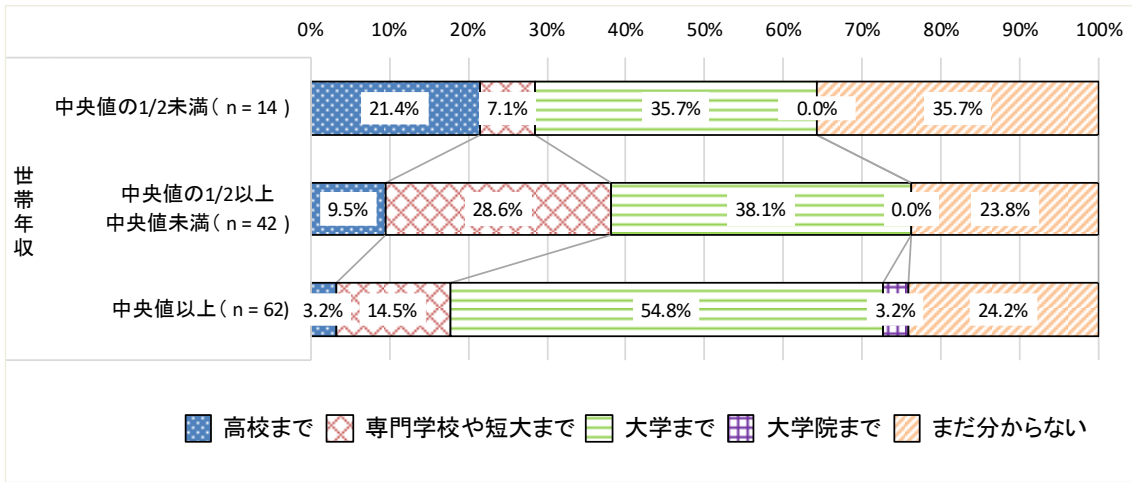
「母親」の就労状況について世帯の状況別にみると、「ふたり親世帯」では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が40.4%で最も割合が高く、「ひとり親世帯（母子世帯）」では「正社員・正規職員・会社役員」が57.1%で最も割合が高くなっている。前回調査と比較すると、母親の「正社員・正規職員・会社役員」の割合が高くなっている。

「父親」に関しては、「ふたり親世帯」では「正社員・正規職員・会社役員」が79.8%となっている。

●収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、子どもが将来どの段階まで進学するか希望・展望に関して「大学またはそれ以上」と回答した割合が低くなっている。

等価世帯収入の水準別にみると、「大学またはそれ以上」の回答割合は、「中央値以上」の世帯では58.0%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では38.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では35.7%となっている。「中央値の2分の1未満」の世帯は、前回調査と同程度の割合となっており、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では、「大学まで」割合が高くなっている。

世帯の状況別にみると、「大学またはそれ以上」の回答割合は、「ふたり親世帯」では51.5%、「ひとり親世帯」全体では26.7%、「母子世帯」のみでは28.6%となっている。



- 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、お金の援助を頼れる人がいないと回答した割合が高い。また、心理的な状況として、うつ・不安障害が疑われる状況にある者の割合が高い傾向となっている。

等価世帯収入の水準別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「中央値以上」の世帯では19.4%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では19.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では35.7%となっている。

世帯の状況別にみると、頼れる人が「いない」と回答した割合は、「ふたり親世帯」では19.2%、「ひとり親世帯」全体では33.3%、「母子世帯」のみでは28.6%となっている。

保護者の心理的な状況に関して、「うつ・不安障害相当」とされている「13点以上」の割合は8.5%であった。等価世帯収入の水準別にみると、K6のスコアが「13点以上」の割合は、「中央値以上」の世帯では3.2%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では11.9%、「中央値の2分の1未満」の世帯では21.4%となっている。

世帯の状況別に見ると、K6のスコアが「13点以上」の割合は、「ふたり親世帯」では8.1%、「ひとり親世帯」全体では13.3%、「母子世帯」のみでは7.1%となっている。

(2) 支援の利用状況等

- 支援制度の利用状況について、「就学援助」や「児童扶養手当」に関しては、「現在利用している」の割合が約2割、「生活保護」、「生活困窮者の自立支援相談窓口」、「母子家庭等就業・自立支援センター」について「現在利用している」の割合は3%以下となっている。内閣府調査及び前回調査と比較すると、児童扶養手当を利用している割合が高く、生活保護を利用している割合は同程度となっている。

等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の世帯に限って集計すると、「現在利用している」の割合は、「就学援助」については57.1%、「児童扶養手当」については71.4%となっている。

「ひとり親世帯」に限って集計すると、「現在利用している」の割合は、「就学援助」については73.3%、「児童扶養手当」については86.7%となっている。

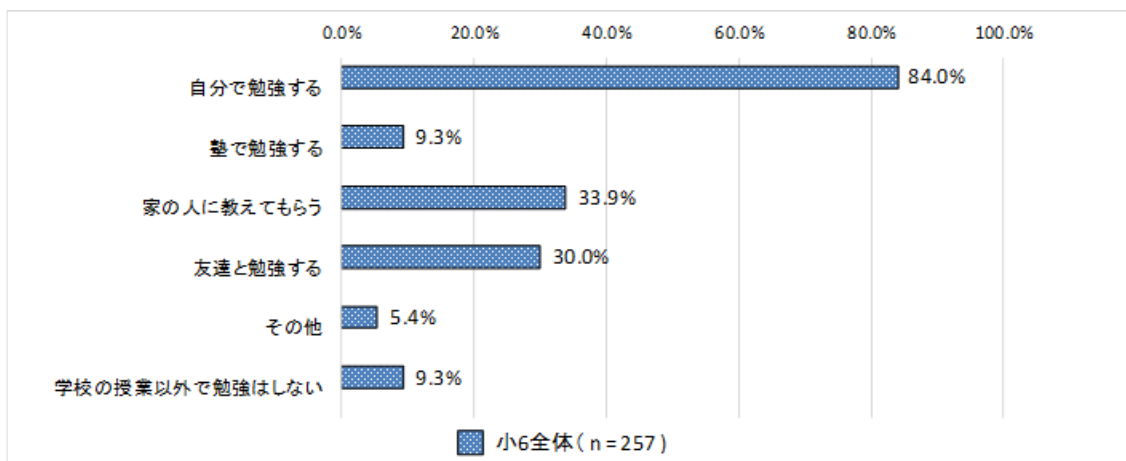
- 各支援制度を利用していない理由について、等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の世帯に限って集計すると、母子家庭等就業・自立支援センターを除く制度において、「条件を満たさないため対象外」の回答割合が最も高くなっている。
「就学援助」においては、「利用したいが手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が33.3%となっている。内閣府調査と比較すると、「利用したいが手続きがわからなかったり、利用しにくいから」の割合が高くなっている。

1.1.2. 子どもの生活状況

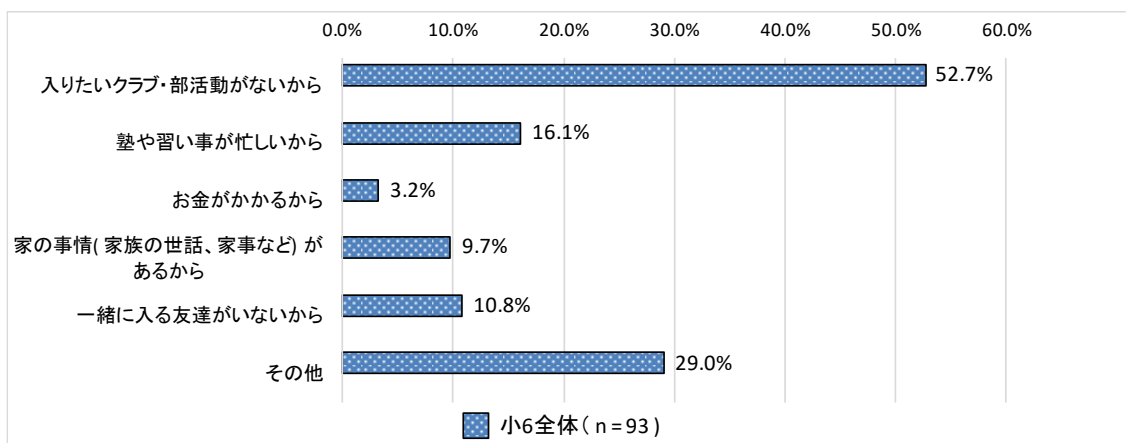
(1) 生活・行動実態

【小学6年生】

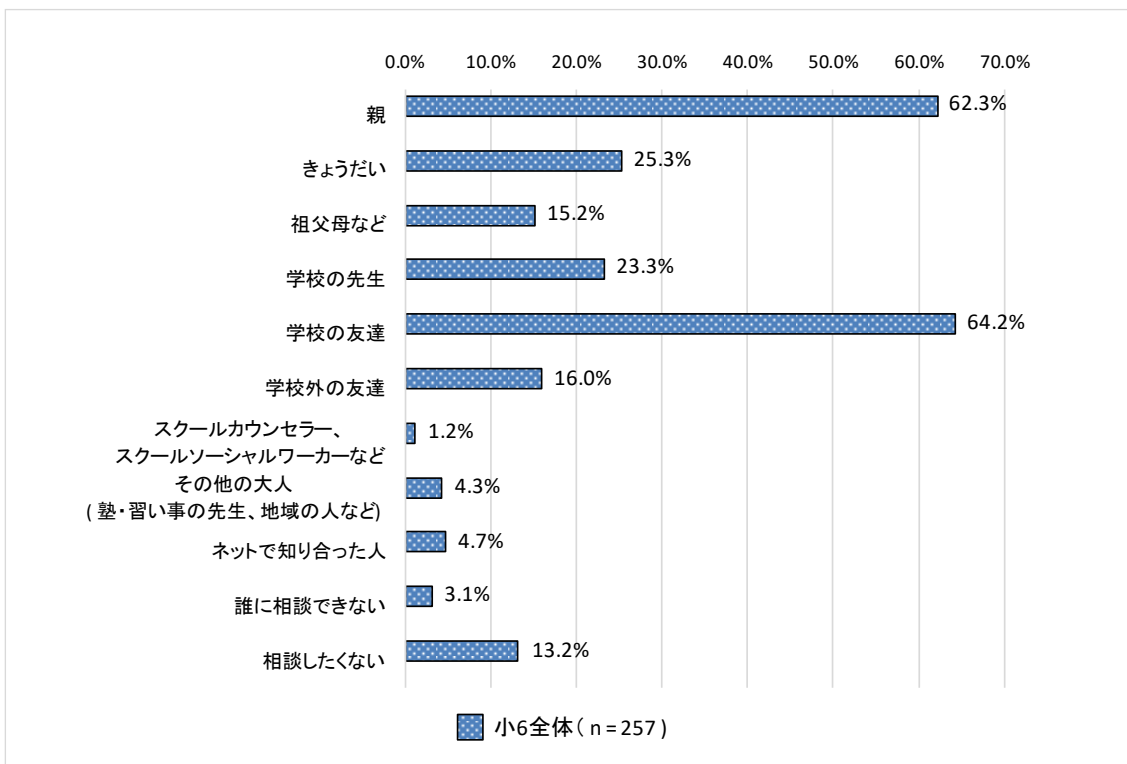
- ・ ふだん学校の授業以外でどのように勉強をしているかについては、「自分で勉強する」が84.0%となっている。



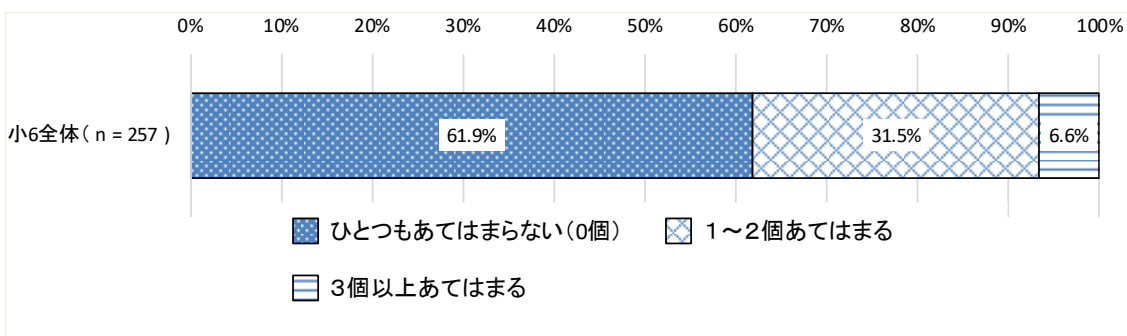
- ・ 部活動等に参加していない理由については、「入りたいクラブ・部活動がないから」が52.7%、「塾や習い事が忙しいから」が16.1%、「その他」が29.0%となっている。



- ・困っていることや悩みごとがあるとき相談できると思う人については、「学校の友達」が64.2%、「親」が62.3%、「きょうだい」が25.3%、「学校の先生」が23.3%、となっている。

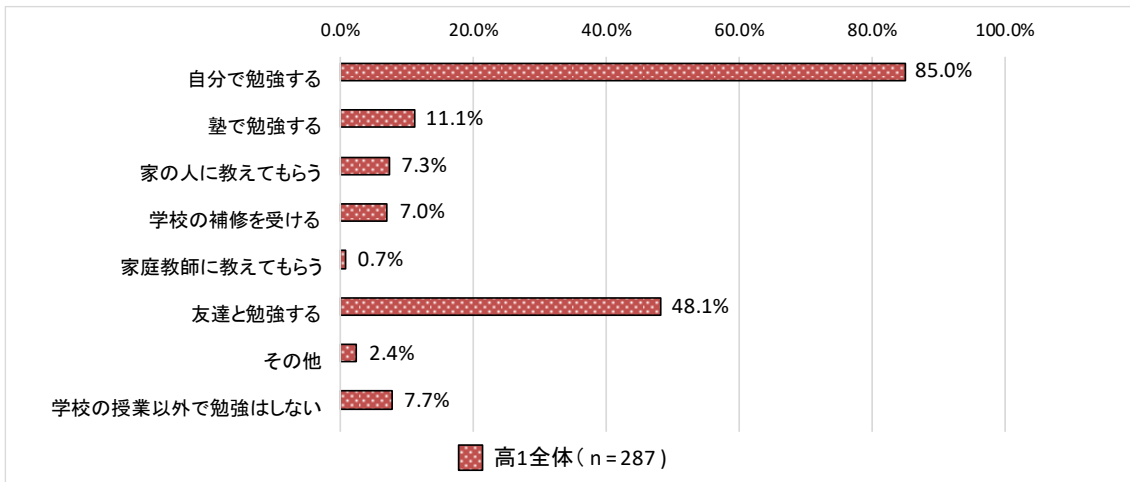


- ・「逆境体験」について、8つの項目のうち、「ひとつもあてはまらない(0個)」は61.9%、「1～2個あてはまる」は31.5%、「3個以上あてはまる」は6.6%となっている。内閣府調査と比較すると、「1～2個あてはまる」「3個以上あてはまる」の割合が高くなっている。

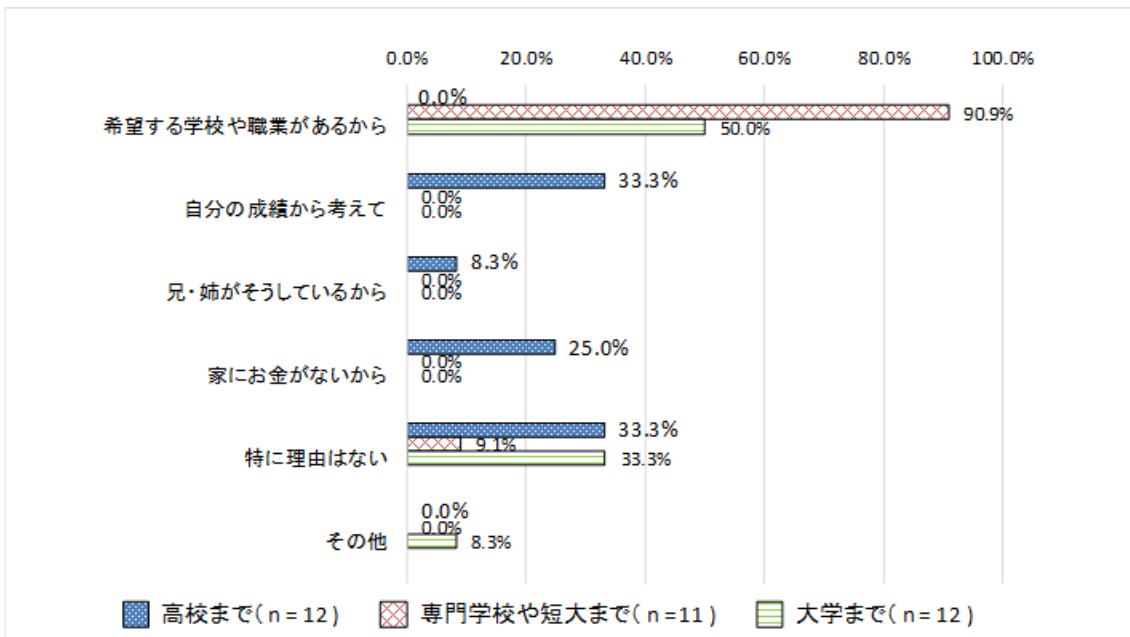


【高校1年生】

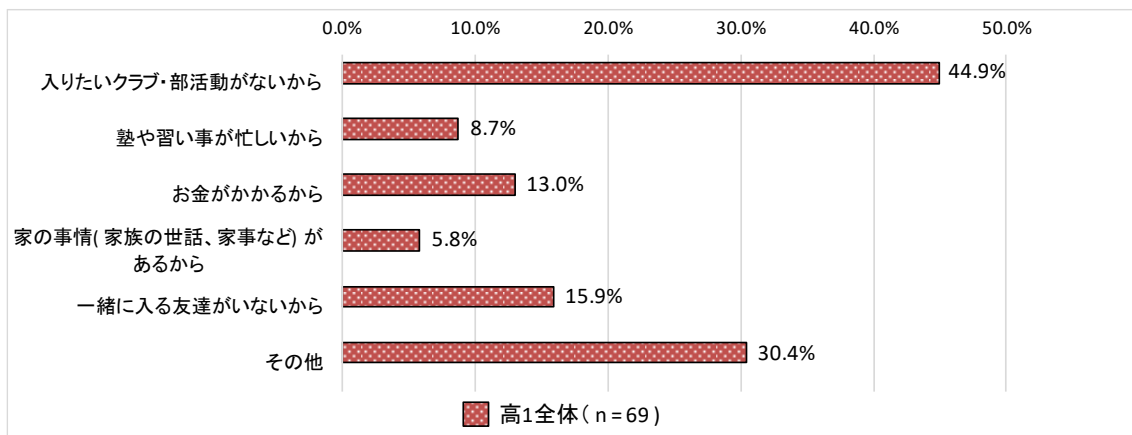
- ・ふだん学校の授業以外でどのように勉強をしているかについては、「自分で勉強する」が85.0%、「友達と勉強する」が48.1%、となっている。



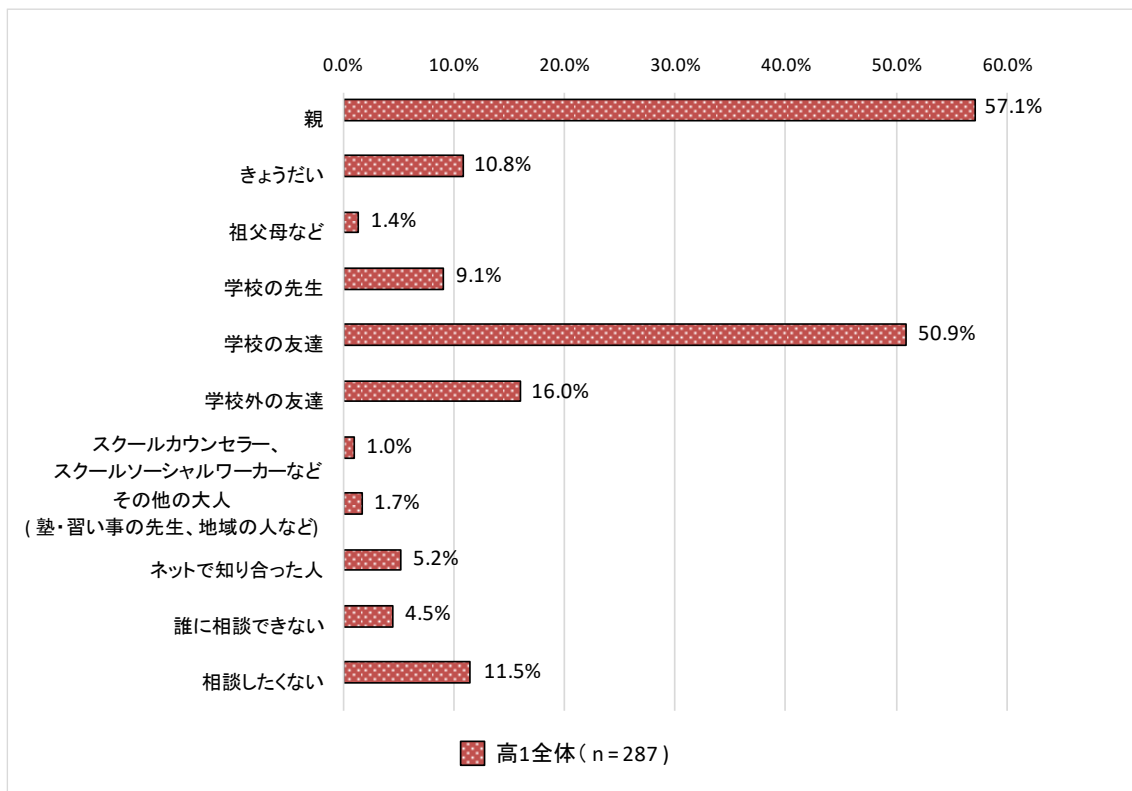
- ・進学したいと思う教育段階別にみると、進学希望の教育段階が「高校まで」の場合には、「自分の成績から考えて」が33.3%、「家にお金がないから」が25.0%、「とくに理由はない」が33.0%となっている。



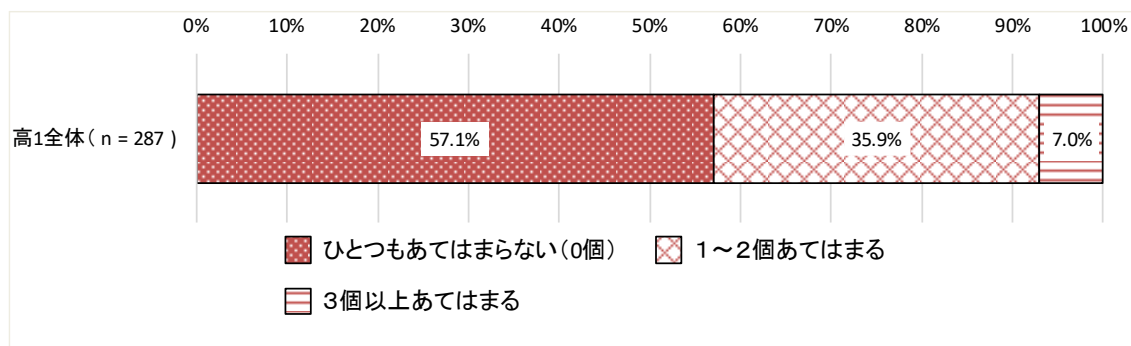
- ・部活動等に参加していない理由については、「入りたいクラブ・部活動がないから」が44.9%、「一緒にいる友達がいないから」が15.9%、「お金がかかるから」が13.0%となっている。



- ・困っていることや悩みごとがあるとき相談できると思う人については、「親」が57.1%、「学校の友達」が50.9%、「学校外の友達」が16.0%、「きょうだい」が10.8%となっている。なお「相談したくない」が11.5%となっている。



- ・「逆境体験」について、8つの項目のうち、「ひとつもあてはまらない(0個)」は57.1%、「1～2個あてはまる」は35.9%、「3個以上あてはまる」は7.0%となっている。内閣府調査と比較すると、「1～2個あてはまる」「3個以上あてはまる」の割合が高くなっている。



(2) 支援の利用状況等

【小学6年生】

- ・支援制度・居場所等の利用状況について、「(自分や友人の家以外で)平日の夜や休日を過ごすことができる場所)」に関しては、「利用したことがある」が24.9%、「利用したことはない」が41.6%、「あれば利用したいと思う」が20.6%、「今後も利用したいと思わない」が5.8%、「今後も利用したいかどうか分からない」が7.0%となっている。
- ・支援制度・居場所等の利用状況について、「勉強を無料でみてる場所」に関しては、「利用したことがある」が2.7%、「利用したことはない」が66.1%、「あれば利用したいと思う」が12.5%、「今後も利用したいと思わない」が13.2%、「今後も利用したいかどうか分からない」が5.4%となっている。
- ・支援制度・居場所等の利用状況について、「何でも相談できる場所」に関しては、「利用したことがある」が5.4%、「利用したことがない」が67.7%、「あれば利用したいと思う」が6.2%、「今後も利用したいと思わない」が13.2%、「今後も利用したいかどうか分からない」が7.4%となっている。

【高校1年生】

- ・支援制度・居場所等の利用状況について、「(自分や友人の家以外で)平日の夜や休日を過ごすことができる場所)」に関しては、「利用したことがある」が18.5%、「利用したことはない」が46.0%、「あれば利用したいと思う」が19.2%、「今後も利用したいと思わない」が9.1%、「今後も利用したいかどうか分からない」が7.3%となっている。
- ・支援制度・居場所等の利用状況について、「勉強を無料でみてる場所」に関しては、「利用したことがある」が7.0%、「利用したことがない」が49.1%、「あれば利用した

いと思う」が 29.3%、「今後も利用したいと思わない」が 7.7%、「今後も利用したいかどうか分からない」が 7.0%となっている。

- ・支援制度・居場所等の利用状況について、「何でも相談できる場所」に関しては、「利用したことがある」が 3.1%、「利用したことがない」が 64.8%、「あれば利用したいと思う」が 10.5%、「今後も利用したいと思わない」が 12.9%、「今後も利用したいかどうか分からない」が 8.7%となっている。

1.2. 調査実施方法等の概要

1.2.1. 調査の目的

本市の児童・生徒及び保護者に対し、調査を実施し、本市の子どもを持つ家庭の生活・経営状態、将来の貧困に影響を与える可能性のある行動実態、子どもの貧困対策に関連する施策の利用状況等を把握することを通じ、子どもの生活支援対策を進めるに当たっての課題や施策の効果等を確認するための基礎資料を得ることを目的とする。

1.2.2. 調査の仕様

(1) 調査地域、調査対象者、標本数、サンプリング方法

調査対象者は、小学6年生の児童及びその保護者並びに高校1年生の生徒とした。標本数は、合計1,107人（小学6年生児童360人（保護者用360世帯分）（高校1年生生徒387人）とした。

(2) 調査方法、調査期間、有効回収数・回収率

調査はオンライン回答とし、親子別々にQRコードを付した調査票案内文（A4片面：モノクロ1枚）を学校を通じて児童及び生徒へ配布した。小学6年生は学校のタブレット等を通じて回答、保護者は生徒が持ち帰った調査票案内文からスマートフォン等を用いて回答した。生徒は、各自のスマートフォン等を用いて回答した。

調査期間は令和5年11月1日（水）～12月1日（金）として実施し、有効回収数は小学6年生257件、その保護者118件、高校1年生287件、回収率それぞれ、71.4%、32.8%、74.2%であった。

表 1-2-1 調査実施方法等の概要

調査地域	奄美市全域
調査対象者	小学6年生の児童及びその保護者 高校1年生の生徒
標本数	合計 1,107 人（小学6年生児童 360 人（保護者用 360 世帯分） （高校1年生生徒 387 人）
調査方法	オンライン回答
調査期間	令和5年11月1日（水）～12月1日（金）
有効回収数（回答率）	小学6年生 257 件（71.4%）、その保護者 118 件（32.8%） 高校1年生 287 件（74.2%）

(3) 報告書を読む際の留意点

- 設問文の末尾に示した「SA」は単一回答形式 (Single Answer)、「MA」は複数回答形式 (Multiple Answer) を示している。
- 図表内の「n=○○」はその設問についての有効回答者数 (集計対象件数) を示している。
- 回答の比率 (%) は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、単一回答の設問の各選択肢の回答に関する数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。
- 平均値の比較に関しては t 検定、分散分析による検定を行っている。図表で示した内容のうち、5%水準で統計的に有意ではない結果については、注釈にてその旨記している。(特段記載がない箇所は、5%水準で統計的に有意である結果である。)

1.2.3. 調査の設問

表 1-2-2 質問項目一覧

保護者表		子供票	
問番号	概要	問番号	概要
1	回答者の続柄	1	本人の性別
2	家族構成	2	学習習慣
2	世帯人数	3	学習時間
3	保護者の年齢	4	学習成績
4	単身赴任の状況	5	授業の理解度
5	親の婚姻状況	6	授業についていけなくなった時期
6	ひとり親の養育費受取状況	7	進学希望
7	家庭で使用している言語	8	想定する進学先の理由
8	親の学歴	9	部活動等の状況
9	母親の雇用形態	10	部活動等を行わない理由
10	就労していない理由	11	食事の頻度
11	父親の雇用形態	12	就寝時間の規則性
12	就労していない理由	13	信頼できる大人・友人
13	幼児期の教育（0～2歳）	14	主観的幸福（生活満足度）
14	幼児期の教育（3～5歳）	15	精神状態
15	保護者の関わり方	16	逆境体験
16	学校行事への参加	17	友達・親の婚姻の状況
17	進学の見通し	18	支援の利用状況
18	想定する進学先の理由	19	支援の効果
19	子供の学習を教えている人		
20	子供が勉強している場所		
21	市役所が実施する勉強会への利用意向		
22	子供がよく過ごす場所		
23	今後利用したい場所		
24	経済的な制限（学習意欲）		
25	経済的な制限（進路）		
26	教育関連の支出の負担		
27	保護者の頼れる相手有無		
28	保護者の頼れる相手（詳細）		
29	暮らし向き（主観）		
30	世帯収入		
31	滞納・欠乏経験（食料）		
32	滞納・欠乏経験（衣服）		
33	滞納・欠乏経験 （電気・ガス・水道料金）		
34	精神状態		
35	主観的幸福感（生活満足度）		
36	支援の利用状況		
37	利用したことがない理由		

（参考：令和5年度かごしま子ども調査）

1.3. 調査回答者の基本属性等

1.3.1. 保護者

(1) 子どもとの続柄

【全員の方に】保護者 問1 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。(SA)

調査回答者の、子どもからみた続柄は、「母親」が 87.3%、「父親」が 11.0%、「祖父母」が 1.7%となっている。内閣府調査及び前回調査と比較すると、同程度となっている。

表 1-3-1 子どもとの続柄

	母親	父親	祖父母	不明・無回答	全体
件数	103	13	2	0	118
割合	87.3%	11.0%	1.7%	0.0%	100.0%

(2) 同居家族の人数

【全員の方に】保護者 問2 本人を含めた合計人数※単身赴任中や学業のために世帯を離れている兄弟姉妹がいる場合には、ご家族の人数に含めて教えてください。

子どもと同居し、生計を同一にしている家族の人数は、「4人」が 20.3%、「5人」が 16.9%となっている。内閣府調査及び前回調査と比較し、同居家族の人数は多い状況となっている。

表 1-3-2 同居家族の人数

	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人以上	不明・無回答	合計
件数	1	10	24	20	12	19	12	19	1	118
割合	0.8%	8.5%	20.3%	16.9%	10.2%	16.1%	10.2%	16.1%	0.8%	100.0%

(3) 同居家族に含まれる方

子どもと同居し、生計を同一にしている家族に含まれる方としては、「母親」が 98.3%、「父親」が 90.7%、となっている。

【全員の方に】保護者 問2 お子さんの家族構成についてお聞きします。半角数字で人数を記入してください。※単身赴任中や学業のために世帯を離れている兄弟姉妹がいる場合には、ご家族の人数に含めて教えてください。

表 1-3-3 同居家族に含まれる方

	母親	父親	祖父母	兄弟姉妹	その他	不明・無回答	全体
件数	116	107	175	185	1	1	118
割合	98.3%	90.7%	148.3%	156.8%	0.8%	0.8%	100.0%

(4) 婚姻の状況

【全員の方に】保護者 問5 お子さんと同居し、同一生計の親の婚姻状況についてお答えください。(SA)

子どもの親の婚姻状況は、「結婚している(再婚や事実婚を含む。)」が 83.9%、「離婚」が 9.3%、「死別」が 0.8%、「未婚」が 2.5%となっている。

「離婚」、「死別」、「未婚」は合わせて 12.7%であり、これらは「ひとり親世帯」であると考えられる。また、調査回答者の子どもとの続柄に関する回答(表 1-3-1 を参照)から、「母子世帯」であるか「父子世帯」であるかを判別すると、ひとり親世帯であると考えられる世帯のうち 6.7%は父子世帯となっている。内閣府調査及び前回調査と比較すると、母子家庭の割合が高くなっている。

表 1-3-4 婚姻の状況

	結婚している (再婚や事実婚を含む。)	離婚	死別	未婚	いない、 わからない	不明・無回答	合計
件数	99	11	1	3	4	0	118
割合	83.9%	9.3%	0.8%	2.5%	3.4%	0.0%	100.0%

表 1-3-5 ひとり親世帯の内訳

	母子世帯	父子世帯	ひとり親世帯計
件数	14	1	15
割合	93.3%	6.7%	100.0%

(5) 日本語以外の言語使用

【全員の方に】保護者 問7 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(S A)

家庭での使用言語については、「日本語のみを使用している」が97.5%、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.5%となっている。

表 1-3-6 日本語以外の言語使用

	日本語のみを使用している	日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	日本語以外の言語を使うことが多い	不明・無回答	全体
件数	115	3	0	0	118
割合	97.5%	2.5%	0.0%	0.0%	100.0%

(6) 最終学歴 (卒業した学校)

【全員の方に】保護者 問8 お子さんの親の卒業・修了した学校をお答えください。(S A)

子どもの親の最終学歴 (卒業した学校) に関し、「母親」については、「短大・専門学校まで」が45.8%、「高校まで」が30.5%、「大学またはそれ以上」が20.3%となっている。

「父親」については、「高校まで」が34.7%、「大学またはそれ以上」が30.5%、「短大・専門学校まで」が22.0%となっている。内閣府調査と比較すると、父親の学歴において「大学またはそれ以上」の割合が低くなっている。

母親・父親の最終学歴の組み合わせとして、「いずれも、大学またはそれ以上」、「いずれかが、大学またはそれ以上」、「その他 (不明等を含む)」の3つの分類で判別すると、それぞれ、割合は4.2%、8.5%、87.3%となっている。内閣府調査と比較すると、「その他」の割合が高くなっている。

表 1-3-7 母親・父親の最終学歴 (卒業した学校)

		中学まで	高校まで	短大・専門学校まで	大学またはそれ以上	いない、わからない	不明・無回答	全体
母親	件数	4	36	54	24	0	0	118
	割合	3.4%	30.5%	45.8%	20.3%	0.0%	0.0%	100.0%
父親	件数	7	41	26	36	8	0	118
	割合	5.9%	34.7%	22.0%	30.5%	6.8%	0.0%	100.0%

表 1-3-8 母親・父親の最終学歴 (卒業した学校) の組み合わせ

	いずれも、大学またはそれ以上	いずれかが、大学またはそれ以上	その他(不明等も含む)	全体
件数	5	10	103	118
割合	4.2%	8.5%	87.3%	100.0%

1.3.2. 子ども

(1) 性別

小学生・高校生 問1. あなたの性別を教えてください。(SA)

調査に回答した子どもの性別について、小学6年生は「男」が53.3%、「女」が44.4%、「その他・答えたくない」が2.3%となっている。高校1年生は、「男」が49.1%、「女」が49.5%、「その他・答えたくない」が1.4%となっている。前回調査と比較すると、男女比は同程度となっている。

表 1-3-9 子どもの性別【小6】

	男	女	その他・ 答えたくない	不明・無回答	全体
件数	137	114	6	0	257
割合	53.3%	44.4%	2.3%	0.0%	100.0%

表 1-3-10 子どもの性別【高1】

	男	女	その他・ 答えたくない	不明・無回答	全体
件数	141	142	4	0	287
割合	49.1%	49.5%	1.4%	0.0%	100.0%